

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271402093		
法人名	有限会社 たすかる		
事業所名	グループホーム たすかる		
所在地	長崎県南島原市深江町戊2975番地2		
自己評価作成日	令和7年1月25日	評価結果市町村受理日	令和7年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和7年3月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月のレクリエーション活動は利用者様に楽しんでいただけるように企画しています。なかでも「食」に対して力を入れており、昼食バイキング、ホットプレート料理、おやつ作りなどを行い利用者様にも好評をいただいています。利用者様の希望はできる限り叶えられるように、職員全員が共通認識をもって支援に取り組んでいます。毎日を利用者様、職員が共に一緒に楽しく笑顔で過ごせるホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは「食」に力を入れており、昼食バイキングでは入居者が好きなものを自由に選べるバイキング形式の昼食を提供したり、ホットプレート料理ではホットプレートを使って入居者と職員と一緒に料理を楽しむ機会を設けている。またおやつ作りでは入居者と一緒におやつを作ることで楽しみながら食に関わる機会を提供しており、入居者や家族からも好評を得ている。毎月発行するたよりには入居者の現状がより分かるように誕生会やおやつづくり等の入居者の写真を多く掲載して家族へ送付し家族の喜びとなっている。管理者が看護師資格を所持しており医療機関との連携もスムーズに行え、入居者や家族の安心感にもつながっている。入居者の希望はできる限り叶えられるように、職員全員が共通認識を持って支援に取り組んでおり、更なる入居者支援に期待が持てる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別紙2-2)

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:グループホームたすかるA棟)	実践状況(ユニット名:たすかるB棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で、理念の共有をし、実践できるように努力しています。毎日の介護サービスに繋がられるように努力しています。	リビングと事務所に理念を掲げており職員が日頃から意識して実践できるように取り組んでいます。	リビングと事務所に理念を掲示し、常に意識できる環境を整備している。日々の業務の中で、理念に沿った行動を意識するよう努め、入居者の自尊心に配慮すると共に特に食を大事にすることを心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の方、近隣住民の方へ、年2回の避難訓練・近隣の散歩・ゴミ収集時など交流を図り、地域とのつながりが出来る様に努力しています。近隣の保育園の園児との交流。	近隣の散歩では保育園児と交流し、周辺の清掃活動などでも、近隣住民の方々と交流を図っています。	年2回の避難訓練への参加、保育園児との交流、近隣住民との挨拶等を通して地域のと交流している。コロナ禍以前は中学生の職場実習等を受け入れており、今後、管理者は感染状況を考慮しながら受け入れを再開していきたい意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議を利用し、自治会長や、民生委員、推進委員の方へ内容を公開し、要望や、理解をしていただけるように努めている。また、同事業所の組織内に居宅事業所・訪問介護事業もあり活用して情報の共有を行っている	自治会長、民生委員、ご家族、推進委員広域へ推進会議に参加いただき、ホームの活動などの情報公開を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の、議題内容などの資料を掲示したり、ケア会議などを利用して話し合ったり、意見などを聞いたりして、サービス向上に繋がられるように努めている。資料配布時、地域情報の共有、意見などを伺えるように努めている。	推進会議にて地域の情報やアドバイスをいただき、ケア会議等で報告や協議を行いサービス向上に努めています。	運営推進会議に自治会長、民生委員、家族、島原地域広域市町村圏組合担当者が参加し、ホームの現状を伝え、会議を通じて要望や意見等を伺い、相互理解を深めるよう努めている。職員の研修状況や身体拘束への取り組み状況を報告する等、運営の透明性につなげている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:グループホームたすかるA棟)	実践状況(ユニット名:たすかるB棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議の担当だった方へ、日ごろから判らないことや、疑問など電話などで相談を行ったり、推進会議時、事業所の状況なども書面などで報告を行っている。また、支所に出向いて、担当の方へ尋ね、説明を受けている。	日頃より介護事業等に関する疑問やわからない件は市役所や支所又は広域に電話にてお尋ねし、詳しくご指導をいただいています。	日頃から島原地域広域市町村圏組合担当者へ不明な点や疑問点があれば、電話などで気軽に相談できる関係を築いている。運営推進会議の際には、ホームの状況を報告するほか、必要に応じて行政担当部署に出向き、担当者から直接説明を受けることで、より深い理解に努めている。社会福祉協議会の日常生活自立支援事業の利用等、関係団体とも協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の安心安全を基に、常に、職員が見守り声掛けなどを行い、身体拘束をしない対応の仕方を日常的に行い、配慮している。ケア会議などで、状態の報告をし、職員みんなで共有し、対応方法を考慮したり、良かった時の情報の共有を行っている。	玄関の施錠はしていません。身体拘束について研修などを行い、帰宅願望が強い利用者様に対して個別対応やドライブ、散歩、外気浴などで気分転換を図っていただくケアを実践しています。	職員が常に見守り、声かけを行いながら入居者の状況を把握し、安心感を提供している。ケア会議で入居者の状態を報告し、職員全員で情報を共有し対応方法を検討したり、良かった事例を共有することで、ケアの質の向上に努めている。オンラインによる身体拘束に関する研修に参加し、職員の意識向上と知識習得に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修資料や、虐待に関する記事が出た場合には、職員に回覧し、職員一人一人周知し理解、出来る様に話し合ったり、利用者の状態の把握・観察などの徹底を行っている。	施設内研修やオンライン研修にて学んだことや虐待についての新聞記事などは回覧して、日頃から利用者様の表情や身体の状態の観察に努めて、職員間で情報の共有を行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ感染予防の為、研修の機会があまり無かったため、参加していない。該当する方がいなかったため、活用に至っていない。	資料などで目にする機会はありますが、研修には参加していません。活用にも至っていません。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:グループホームたすかるA棟)	実践状況(ユニット名:たすかるB棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・退所持の説明や、介護保険改定の際は、分かり易く説明し、理解・納得されたうえで、契約書・同意書など、2部発行し、互いに保管していただくように努めている。	契約、退所、改定の際は管理者が説明し、ご理解、納得をされたうえで契約書、同意書を発行して、御家族、事業所で双方が保管するように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や、自宅訪問の際、面会時などを通じて、ご家族様の要望などを傾聴し、思いや意見を聞き入れ反映できるよう努めています。	何でも話しやすい環境に配慮し、御家族様からの要望や利用者様の思いを傾聴して反映に努めています。	運営推進会議、自宅訪問、面会などの機会を通じて、家族の要望を把握できるよう努めている。家族の思いや意見を真摯に受け止め、可能な限り反映できるよう努めている。家族が何でも気軽に話せるような、温かく開かれた環境づくりを心がけており、定期的に行うたよりに入居者の現状がより分かるように写真を多く掲載し家族へ送付している。	入居時における重要事項として第三者評価の受審状況を家族等へ説明することが求められており、今後、重要事項説明書において第三者評価の受審状況が分かるように、第三者評価実施の有無、評価実施日、評価機関名、評価結果の開示状況を記載すると共に、外部評価調査を通じて実施する家族アンケート調査においても家族の意見を汲み取り反映する機会となる旨を説明し協力を求めることを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会や事業管理者会議などの運営に関する会議時、意見や、提案を報告し合い共有できるように努めている。	ケア会議などの意見を管理者会議などで提案して、職員に報告し業務に反映できるように努めています。	ケア会議では入居者にはどのようなケアがその方に一番合っているかなど、活発な意見交換がなされている。職員の要望や意見は定例会や管理者会議で提案し、職員全体に報告することで、現場の声を業務に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者に職員の状況や、体調、仕事ぶりなど書面で求め、報告をし、研修や、職員の努力や、実績を把握し、給料に反映できるように努めている。人的要綱を加味し、働きやすい環境・職場づくりに努めている。	代表へ管理者が職員の勤務状況や実績を報告し、把握、評価され、各職員の意欲向上につながるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:グループホームたすかるA棟)	実践状況(ユニット名:たすかるB棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や、職員の状況に応じて、実践者研修や、実務者研修等々に、参加できるよう、また参加の働きかけを行っている。研修へ参加したときのことを振り返り、現場で実践できるよう共有している。	職員の育成に力を入れオンライン研修参加や資料を配布して直接指導されたり、会議などで情報の共有化を図り実践に活かせるように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連事業所との交流や、管理者同士の話し合いの場を設けている。また、互いに困難事例や、事例を基にサービスの質の向上に繋げられるように、助言や話し合いの場を設けている。	管理者同士の連絡を取り合って情報交換を行っていきお互いの向上につながるよう努めています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談があった場合は、面会をしたり、施設見学などを設けて、ホームの日常生活をパンフレットなどを用い詳しく説明を行ったり、安心していただけるために、要望などを傾聴しプランに反映し、サービスに繋がれるようにしている。	入所の相談、施設見学の際は、ご家族様やケアマネより情報収集を行い、パンフレットを使用して説明し信頼関係ができるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族状況の把握・要望など傾聴し、サービス内容に盛り込めるように努めている。	ご家族様の要望などを傾聴して状況の把握に努め、プランに反映できるようにして努めています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:グループホームたすかるA棟)	実践状況(ユニット名:たすかるB棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容により、ニーズに合った、支援の方針やサービス内容をプランに盛り込めるように努めている。	本人様、ご家族様の必要としている支援の方針やサービス内容をプランに反映できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の状況に合わせ、出来ることから、色々な事を一緒に行い、日々の生活の中で、その方らしい、生活の場を提供し、また、共感し楽しく生活できるように支援に努めています。	毎日を笑顔で楽しく生活していただけるように、信頼関係を築き、利用者様に寄り添いながら、共同生活ができるように支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りを送付し、行事の写真やコメントを添えたり、施設内にも掲示したり、面会時報告を行い、要望を聞いたりして、利用者様の生活の安定と心身の状態の維持・改善が出来る様に努めている。	定期的な状態報告を行い、ご家族様の要望、意見を傾聴できるように努めています。毎月発行のお便りや行事の写真と同封して、ご家族様との信頼関係の構築に努め利用者様を共にささえられるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話などの希望がある場合は、支援を行い、家族以外の方でも、利用者様・ご家族の希望があれば、知人の方でも面会できるように対応している。外出の機会を設け、出来るだけ希望に添える様に努めている。	利用者様の馴染みの関係を大切にして友人、知人の方々の面会、電話対応も行っています。また、遠方のお孫様やご兄弟様からの電話対応もとても喜ばれています。	できる方には年賀状を書いてもらい、家族や友人に送ったり、友人・知人といった馴染みの同級生との面会や、近所の教会へ参拝に行くなど馴染みの関係継続を支援している。入居者自身で携帯電話を所持する方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:グループホームたすかるA棟)	実践状況(ユニット名:たすかるB棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で、協働のできる手作業や、レクリエーション・体操・風船バレー・カラオケなどを取り入れ、孤立されないような声掛けや、職員が仲介したりして、安心して生活できるように努めている。	日常的に出来るだけリビングへご案内して職員、利用者様と一緒に共同作業や談話を心掛けています。行事やレクリエーションへ皆様に参加していただき職員が仲介して利用者様同士の関りを増やしていけるように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されてからも関係性が持続できるように、代表が自宅訪問したり、推進委員などの協力をさせていただき、地域との関わりも同時に継続できるように支援している。	退所後も、ご家族様より連絡があり、野菜やお花などの差し入れをいただいています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとり一人の状況の把握と、その方その方の思いや生活に対する希望や意向を日常生活の会話や状況から、見だし、職員間で共有、ケア会議などで、意見を出し合い、その方らしい生活が出来る様に努めている。	日常生活の中から利用者様一人ひとりの思いや希望を見出し、ケア会議等で協議を行い、共有して意向に沿えるように努めています。	職員は日常生活の会話や行動から、入居者一人ひとりの状況、思い、生活への希望や意向の把握に努めている。把握した情報は職員間で共有し、ケア会議などで意見を出し合い、介護計画に反映している。必要に応じて家族にも確認しながら本人本位のケアの実践に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や、生活環境などをご本人様をはじめ、ご家族や、担当ケアマネからの情報を基に、大切にしてこられた生活の情報を把握し、プランや、支援に反映できるように努めている。	ご家族や利用者様からの情報を基にして生活歴、生活環境を把握して、プランや支援経過に繋げられるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:グループホームたすかるA棟)	実践状況(ユニット名:たすかるB棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、利用者様の状態の把握に努め、残存能力や、利用者の気持ちに添えるよう声掛け・傾聴し少しでも安心して生活できるような支援に努めている。	利用者様一人ひとりのペースや状態に合わせて職員間で状況を把握して、安心安全に生活していただくように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに関しては、利用者様の状況を把握し、御家族や、利用者の意見を反映できるように、現状に応じたサービスが提供できるように作成している。また、モニタリングし、支援経過を見ながら、状況の把握と評価に努めている。	利用者様やご家族様の意向を汲み取りながら、職員間で協議し現状に応じた介護計画になるように作成しています。	介護計画の立案にあたり、入居者本人や家族の意向を確認し、必要に応じて往診時に医師より助言を得るなど、現状に即した介護計画の作成に取り組んでいる。モニタリングにおいて介護計画の実践状況が分かりやすいように○×△で表記するよう工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況を記した個人記録や、支援経過などを職員間で、共有し、状況に応じて、評価しサービス反映に努めている。また状況の変化があればアセスメントを行い、介護計画の見直しや、介護区分の変更申請の検討も行い実践している。	個人記録や業務日誌には利用者様の状態を細かく記載して、職員全員が把握するようにしています。状態変化があれば早期対応、共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の意見を傾聴し、状況や、要望に応じて、主治医・看護師との連携。自宅帰省や外出の支援が、コロナ感染予防対策の観点からできていないところがある。ご希望があれば、状況に応じて、ご相談しながら以前のような外出ができればと思う。	利用者様の状況や状態に応じて出来る限り対応しています。また個別支援なども行っています。		



自己	外部	項目	自己評価		外部評価		
			実践状況(ユニット名:グループホームたすかるA棟)	実践状況(ユニット名:たすかるB棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は、地域の文化展などに、手作業で作成した、貼り絵・ちぎり絵などを出展し、作品展の見学をし、利用者様同士で一つの作品を作り上げ出品していたが、手作業に参加できる方が少なくなっていた。最近では、できられる方が増えて来られたので、取り組んでいこうと思う。	コロナ前までは地元の文化展などに利用者様、職員の共同作業で作成した貼り絵などを出品して見学にも行っていたが、現在は出来ていない。編み物や塗り絵に取り組みられる方もおられるので、今後出品を検討したいと思います。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人のかかりつけ医や、協力医の往診があり、また、施設と連携している訪問看護師との相談や健康管理が出来る様に体制が取れている。また、状態に応じては、当施設では、看取り介護を実践しているため適切な医療連携が取れる様に努めています。また、近隣の病院で対応できない手術などがあれば、御家族と相談しながら、遠方の入退院時の対応も行っている。	かかりつけ医の往診、受診を行い状態の変化があれば、FAXで相談して指示もいただいている。訪問看護もあり、状態報告、指示、受診につながる体制もとれています。	本人のかかりつけ医への受診や協力医による往診があり、訪問看護師とも連携し、健康管理を行っている。また管理者が看護師資格を所持しており医療機関との連携もスムーズに行え、入居者や家族の安心感にもつながっている。近隣の病院で対応できない手術などが必要な場合は、家族と相談しながら対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、利用者様の状況の変化など共有し、情報や、気づきなど1週間に1度来設する看護師へ相談したり、緊急な場合には、この限りではなく、適切な医療に繋げることが出来る様に努めている。	利用者様の特変、状態の変化があれば、看護師に報告し、適切なケアや受診ができるように努めています。また、週一の訪問看護師へも状態報告、相談をして指示をいただいている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様の入院があった場合には、洗濯物などの支援をし、少しでも日常生活に戻れるような関係づくりに努めている。また、医療機関との連携・相談を行うことで、早期に退院できるような体制に繋げられるように心がけている。	入院時には現状のアセスメントを提供している。医療機関との情報交換を心掛けて、医療機関とからご家族様への説明時も出来る限り同席させていただき、適切な支援ができるよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:グループホームたすかるA棟)	実践状況(ユニット名:たすかるB棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や、終末期に向けての利用者様の状況を踏まえ、主治医・ご家族・看護師・施設管理者との話し合いの場を設け同意を得て、事業所でできることを十分に説明し、終末期の方針をチームとして共有し、今後も、医療的な知識を理解し、チーム一丸となって支援できるように研修会・勉強会など取り組んでいきたいと思っています。	入所時に現時点での希望をお伺いし、変更可能である事も説明している。状態の変化に伴い主治医、ご家族様、管理者看護師との話し合い設けています。ホームで出来る事を十分にご説明したうえで看取りの希望を決めていただいています。	ホームでの看取り支援を行っており、主治医、家族、看護師、管理者が入居者の状況を踏まえた話し合いの場を設け、入居者の意向を尊重して今後の支援方針を決定している。ホームで提供できる支援内容を十分に説明し、家族に安心して選択してもらえるよう取り組んでいる。	入居者の高齢化や重度化に伴い、今後、ホームでの看取りを希望する方が増加していく可能性があるため、職員に対し、あらためて看取りの研修や勉強会を企画・実施することで看取りに対する不安を軽減し、チーム全体で看取りケアの質向上を目指す取り組みに期待する
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応として、事故発生時のマニュアルを作成し、職員が、把握し対応できるように努めている。昨年までは、年1回は、救急処置を実施していたが、防火管理者不在があり、できていなかった。消防署不在で、救急救命(心肺蘇生)の指導が受けられなかった。各棟で、自主訓練の必要性を考慮し、取り組む必要がある。	事故発生時のマニュアル作成を行い職員が対応できるように努めています。救急処置を年1回実施していましたが、防火管理者不在がみられ、実施できていない。救急救命の指導も受けていないので今後は取り組んでいきたいと思っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災に備えての避難訓練は、年に2回、昼夜問わず、利用者様を交えて実施できていたが、防火管理者不在があり、実施できていなかった。新しい防火管理者と話し合い、火災をはじめ風水害・地震などを想定し訓練も今後も実施し、訓練を行いたいと思います。一昨年は、自然災害(地震を想定し火災発生)を行った。	火災に備えての避難訓練は年2回実施してきたが、防火管理者不在期間があり、実施できなかった。今後は新防火管理者と協議して地震、水害を想定した訓練も実施したいと考えます。火災対策として全てのコンセントの点検、掃除を定期的に行っています。	年2回の避難訓練を実施されており、直近では令和6年11月に、入居者16名、職員14名の参加の下で行われている。職員不足もあり、訓練日程の決定後に消防署に伝えているため、日程調整が難しく消防署員立会いの下での訓練は最近はできていない。尚、各ユニットより訓練時の検証結果報告が出されており、細かくチェックされた訓練結果を記載されている。	避難口の段差や狭い通路など、様々な場所での搬送訓練によって課題や改善点を洗い出し、スロープの必要性など多角的な視点から評価を行い、より実効性の高い避難訓練を目指し取り組むことを期待する。またBCPを策定されており、今後、策定したBCPが実際の緊急事態で機能するかどうかをシミュレーションを通じて課題を検討し、職員へBCPIに対する理解と意識を高める取り組みに期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとり一人の自尊心を気づけない様に配慮し、尊厳と利用者様に対してのプライバシーを損ねない様に声掛け、判りやすい言葉かけを行うように努めている。	利用者様の尊厳をまもり、一人一人に合わせた声掛け、対応を行うように努めています。	入居者の気持ちに寄り添い、自尊心を傷つけないよう配慮している。入居者のプライバシーを尊重し、必要な情報以外は他者に漏らさないようにし、職員は入職時に個人情報保護に関する誓約書にサインしている。声かけや言葉遣いに配慮し、入居者が安心して過ごせるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:グループホームたすかるA棟)	実践状況(ユニット名:たすかるB棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で、それなりに自己決定が出来応えて下さるように、配慮しながら、できるだけ自分でできることは、行っていただき分かり易く説明も行うように心がけている。	日々の生活の中で会話やレク活動を通じて、利用者様の希望や思いを引出し活かしていけるように努めています。自分で出来る事は行ってただくように声掛けしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側のペースを優先することなく、ひとり一人の役割や、残存機能を活かした手作業、レク、健康体操など取り組み支援を行っている。出来る限り希望に添える様に支援している。	利用者様の希望、ペースに合わせて手作業、体操、外気浴などに取り組んでいます。また、一人の時間を好まれる方も、居室、リビングでのバランスを考慮しながら支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれができる方は、自身で洋服を選んでもらったり、外出の際には、お化粧の支援も行っている。また、男性の方も髭剃りなどで来ていないところは、声掛けを行い支援している。	入浴時やケア時に顔そり、髭剃り実施。洋服選びも、なるべく本人様に選んでいただいている。自作のマフラーをつけられたり、化粧水、整髪剤も入浴後にセッティングすると塗られています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを作成するときは、季節の野菜や、材料を使って献立を考えたり、簡単な作業と一緒にできる様に、ホットプレートなどを利用し、お好み焼きや、焼きそば、たこ焼きなどを作り一緒に楽しく食べれる支援をしている。	利用者様が野菜の下拵え、トレイ拭きなどを役割として行っています。旬の食材や好みの物をメニューに取り入れたり、レクリエーションにてホットプレート料理を行い自分達で作って食べる喜びと食欲増進につなげています。	入居時及び6か月毎にアレルギーの確認を行っている。食事摂取の状況を確認し、嗜好の確認を行っている。手作りの食事を提供し、食材は事前に配達され、或いは家族からのいただき物などの旬の野菜を用いて調理されている。野菜の芽取りなど可能な範囲で入居者に役割を持ってもらうことで意欲の向上につなげている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:グループホームたすかるA棟)	実践状況(ユニット名:たすかるB棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表を利用し、その方に見合った食事量を提供している。また、排尿量などもチェック表を確認し、排尿間隔があいていると排泄量、を確認したうえで、水分の摂取を補えるように支援している。	毎日の食事、水分量は記録して、チェックを行い健康管理に努めています。一人ひとりの状態に応じて、とろみ使用、おかゆ、キザミ、経腸栄養剤などの食事形態で提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ひとり一人の口腔ケア状態を把握し、毎食後本人の力に応じた、保清・ケアをしていただきできない方は、職員が介助している。	毎食後口腔ケアを実施して、異常がある時は歯科受診、往診を行っています。義歯使用の方は入れ歯安定剤使用され、毎晩ポリデント洗浄を実施しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人一人の排泄パターンに沿った、声掛け介助を行い、おむつやパットの使用を軽減できるように努めている。	排泄チェック表にて各自の排泄パターンを把握して、定期的に声掛け、トイレ誘導を行っている。オムツ、パットに関しても時間帯でパットの使い分けを実施している。	排泄チェック表を活用し、把握した情報に基づき、適切なタイミングで声かけやトイレ誘導を行っている。おむつやパットの使用の軽減を図り、パットの大きさや種類を使い分けるなど取り組んでいる。便秘の方には乳酸菌を含む食品を積極的に提供し、必要に応じて、医師の指示に基づき、内服薬や坐薬を使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールが出来る様に定期的なトイレ介助を行ったり、原因を探り、水分補給を促したり、食物繊維の食材を取り入れたり、健康体操や運動を取り入れ、スムーズな排泄に繋がられるように努めています。	内服や坐薬の使用、腹部、肛門マッサージ、適度な運動を行い排便コントロールに努めています。冷牛乳やヨーグルトなどの乳製品の提供も行っています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:グループホームたすかるA棟)	実践状況(ユニット名:たすかるB棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日を設けている。その日の状態にあった入浴の支援を行うように努めている。その時にできないときは、時間をずらしたり、翌日に対応している。もしくは、声掛けし、体拭や清拭、ドライシャンプーなども行えるようにしている。	週2回の入浴を実施し、季節に合わせて菖蒲湯やゆず湯を取り入れています。拒否がある方は、時間を置いたり、声掛けの工夫をして対応しています。	週2回の入浴日を設け、入居者一人ひとりの状態に合わせて入浴方法や介助方法を柔軟に調整している。体調不良などで入浴が難しい場合は、時間をずらしたり、翌日に対応し、清拭やドライシャンプーなど、代替方法を提供している。入浴介助を行う際は、本人の尊厳に配慮し、希望に応じた入浴の順番や、柚子湯など心身のリフレッシュができるよう工夫している。	脱衣室は、急激な温度変化が起こりやすく、ヒートショックのリスクが高い場所でもあることから、脱衣室でのヒートショック防止のため適切に温度管理を行えるよう温度計を設置し可視化を図ることが望ましい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方その方の生活のリズムに合わせて、休息していただける支援を行っています。日中には、手作業をしていただき、昼寝をしていただくたりして個々の生活の習慣で対応している。	休憩や就寝時間も個別に対応しています。一人ひとりの意思を尊重して、安心して休んでいただくように努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が、利用者様の疾病や内服薬、副作用などの理解に努め、処方薬の票を確認をし、変更があった場合は、連絡ノートなどを活用し、職員間で共有している。	内服にについては職員が理解し服薬支援を行っています。誤薬がないように職員2名で対応しています。薬の変更等があればケア会議にて再度確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の生活のリズムをとっていただくためにも手作業(洗濯物たたみ・新聞折り・チリ紙おり)を職員と一緒に、利用者の残存機能を活かし、役割を持つことで生きがいに繋がられるように努めている。	手作業は利用者様のその日の状態に応じて取り組んでいただいています。行事もリクエストをいただき開催しています。また、編み物、ぬりえなど本人様の大好き、得意な物を取り入れています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名:グループホームたすかるA棟)	実践状況(ユニット名:たすかるB棟)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防のため、極力外出は、状況を見て、控えています。必要に応じて、外出の機会を設けたり、利用者様の希望を伺ったりして、気分転換が図れるように努めていきたいと思えます。	コロナの感染予防の観点から外出は控えています。今後は少しずつ利用者様の希望に沿える外出支援を行っていきたくです。	これまでコロナ等の感染状況を考慮し、極力外出を控えてきた。管理者は感染状況を考慮しながら、今後入居者の希望を伺い、外出先のトイレの設備状況に留意して外出計画を立て、可能な限り外出する機会を設けたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族と相談し、利用者様が、所持していて紛失しても支障がない額を所持していただくように支援しています。買い物のご希望があれば、状況に応じて対応したいと思います。	ご家族様了解のもとで、お金の管理ができる利用者様はおこずかい程度の金額を所持されています。散髪などの際に使用されるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族や、利用者様のご希望に応じて、手紙の代読をし、その手紙には、返信困難な時は、電話をかけて差し上げたり、電話の希望があれば連絡できるように支援しています。個々で、携帯電話を使用されている方もいらっしゃるのので、対応しています。	携帯電話をお持ちの方は毎日ご家族様に連絡されています。毎年12月には利用者様全員が職員と一緒に、ご家族様宛に年賀状を作成しお送りしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には、季節感を感じていただけるように季節に合った飾り物や、花などを飾り、また、利用者様の日常生活の風景を撮った、写真を廊下に貼りコメントを書き、利用者様が見やすい高さに提示し、見て回れるように工夫しています。	リビングには季節に応じて飾り物をかざり、廊下には行事の写真や塗り絵などを掲示しています。また、玄関や玄関先にも季節の花を飾っており、外気浴時に利用者様も喜ばれています。	入居者の日常生活の風景を撮った写真を廊下に貼り、コメントを添えて展示している。ホーム内には、季節に合わせた飾り物や花を飾り、季節感を演出している。リビングには季節に応じて飾り物をかざり、廊下には行事の写真や塗り絵などを掲示している。ホーム内は随時換気し、食事前はテーブルの消毒を行っている。	